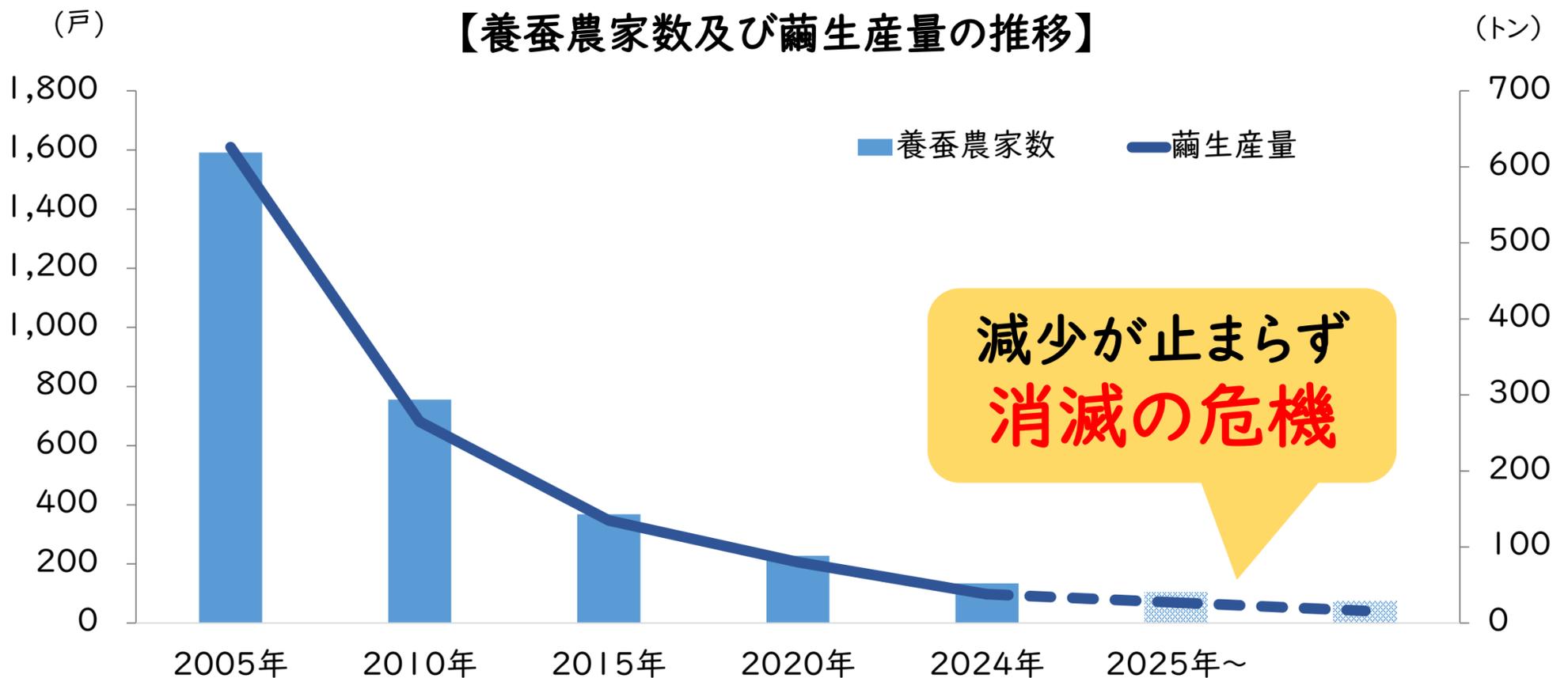


# 存亡の危機に直面する我が国の蚕糸業

## 1. 養蚕農家数及び繭生産量

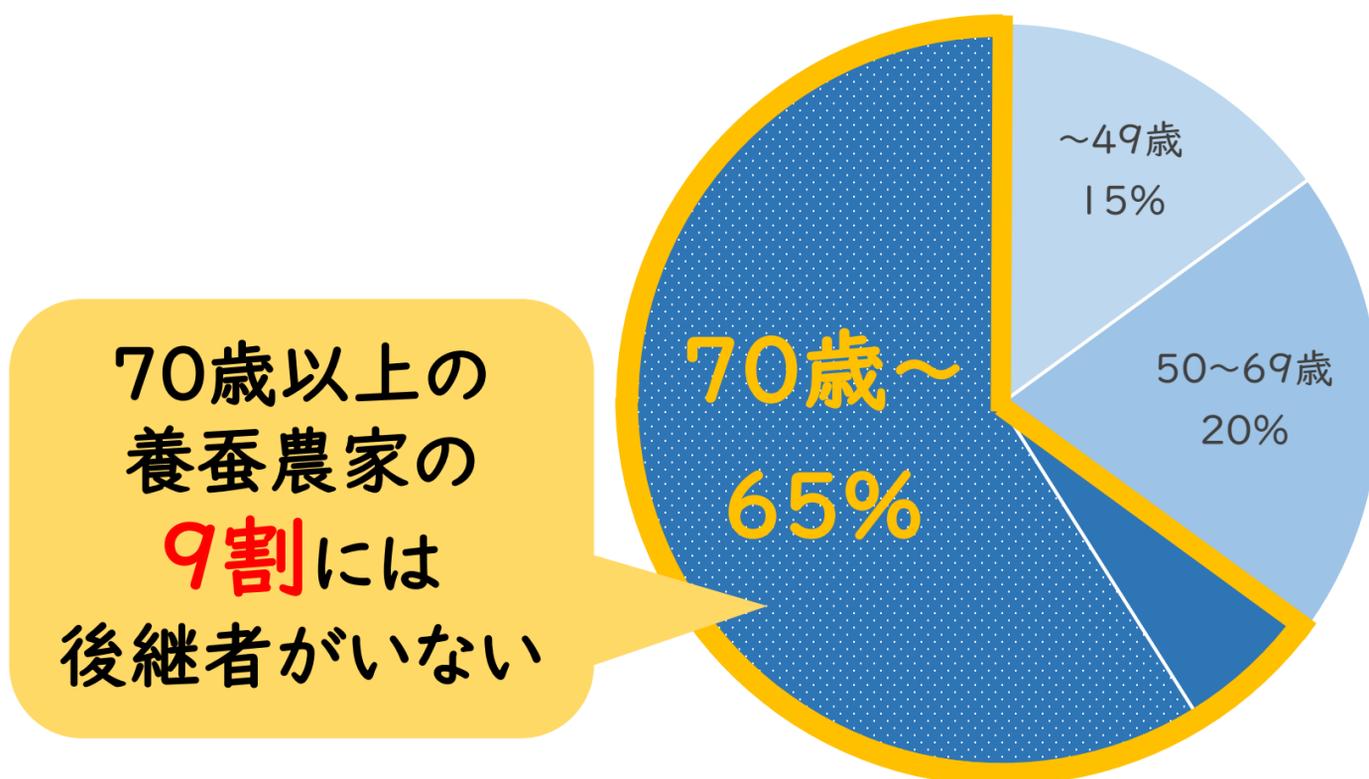
繭生産の戦後のピークは1968年(昭和43年)で12万トンもありましたが、それ以降、養蚕農家数、繭生産量は減少が続いており、直近(2024年)の養蚕農家数は134戸、繭生産量は38トンとなっています。



## 2. 養蚕農家の高齢化と後継者の不在

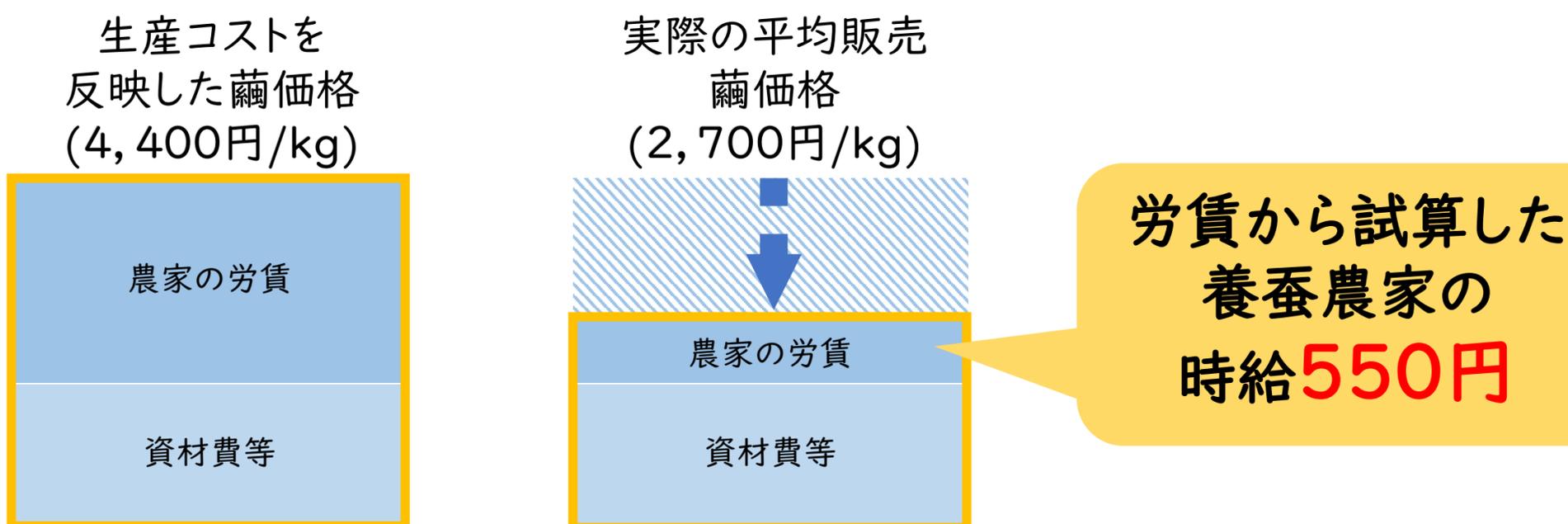
養蚕農家の経営主は70歳以上が全戸数の約2/3を占めており、それらの農家の9割には後継者がいません。

【農家の経営主の年齢構成】



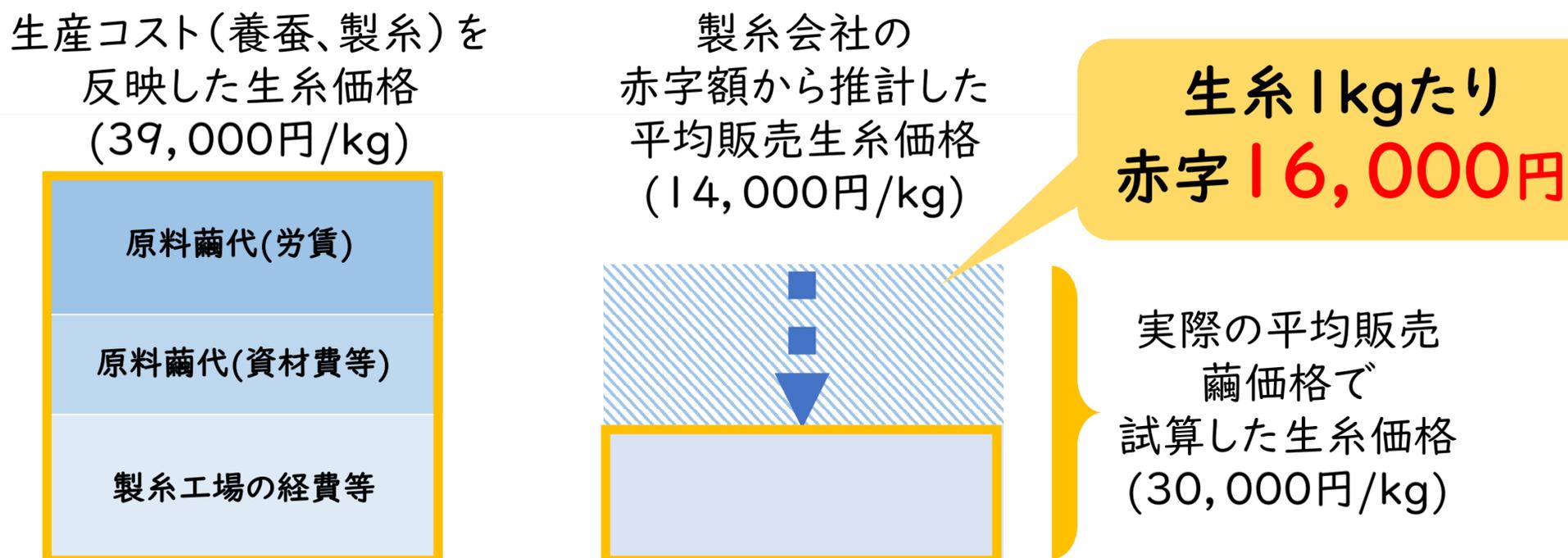
### 3. 日本の養蚕業が衰退してしまった原因

平均的な繭の販売価格から計算すると、養蚕農家の時給は約550円にすぎません。このため、養蚕農家の後継者が育たず、また、新たに養蚕に取り組もうという農業者の数も極めて少なくなっていました。



### 4. 我が国の製糸業の厳しい経営状況

国内製糸を生産している製糸工場は現在わずか5社となってしまいました。製糸部門は全て赤字で、生糸を1kg売る度に平均で約16,000円の赤字となっている状況です。



● 国内の蚕糸業が将来も存続していくために

**国産生糸の歴史的・文化的な価値を理解し、  
国産生糸を使用した絹製品を  
適切な価格で購入することを通じて、  
日本の蚕糸業を応援していただくことが必要です。**